



宇美町

優美な氷の芸術。
自然と歴史が溶け合うまち

河原谷の大つらら

例年寒気が強まる1月から2月にかけて、三郡山の河原谷渓谷に現れる見事な大つらら。雪解け水などが岩肌をつたいながら氷結し、寒さが続くと、つららの高さが20mになることも



■ 地域交流センター うみ・みらい館
開放的な図書館や多目的ホールがあり、生涯学習を推進する宇美町の活動拠点となる施設。クリスマス
の時期には建物外観にイルミネーションが灯される



■ 光正寺古墳
糟屋郡内で最大の前方後円墳。県内の前期古墳の中
でも最古期の古墳とされ、当時、糟屋地域を支配して
いた王の墓と考えられている。国指定史跡



■ 四王寺毘沙門詣り (四王寺山)
1月3日(早朝から正午まで)、毘沙門堂でお金を借り
て帰り、翌年倍にしてお返しすることで1年間お金
に不自由しないとされる。町指定無形民俗文化財



■ 一本松公園 (昭和の森)
「福岡県森林浴100選」に選ばれている自然を満喫で
きるスポット。四季折々の風景が美しく、夏場にキャ
ンプを楽しめるバンガローもある



■ 大野城跡 (尾花地区からの展望)
国指定特別史跡である大野城跡の南の山頂部に位置
し、米や武器を貯蔵する倉庫が建っていた場所。近くの
土塁の上からの見晴らしが良く、美しい夜景も望める



■ 大野城跡 (百間石垣)
665年に築造したとされる日本最古の古代山城。
大野城市・太宰府市にもまたがるが、城内の約80%
が宇美町に所在。全長約180mの「百間石垣」も残る



■ 宇美町立歴史民俗資料館
考古展示室、民俗展示室、町民ギャラリー
に分かれ、宇美町の歴史や文化を紹介。
入館無料



■ 独鈷杵
四王寺山から出土
した密教の儀式に
使われる法具。青銅
製で平安時代後期
ごろのものとされ、
九州では最古級



■ 宇美神楽
宇美八幡宮の神楽殿
において、春の「子安
大祭」、秋の「放生会」
の年2回奉納される。県
指定無形民俗文化財



■ 芋焼酎 宇美さん燦
宇美町の太陽の恵みを燦々と浴びて育てられ
たサツマイモを使用した本格芋焼酎



■ 子安の石 (宇美八幡宮)
安産祈願の際に「お産の鎮め」として納められてい
る石を借り、出産後に新生児の名前を記した別の石と
一緒に初宮参りでお返しするという習わしがある

■ 出初式
1月開催の宇美町消防団の出初式では、消防太
鼓、纏振り、火消し節、梯子乗りなど力強く勇壮
な伝統技術が披露される



■ 宇美八幡宮
神功皇后が應神天皇を出産されたとい
われる地で、安産・育児の神として信仰
され、多くの人が安産祈願やお礼参り
に参拝する。境内の樹齢2000年以上
とされるご神木「湯蓋の森」「衣掛の森」
は国の天然記念物に指定されている

人と地域が紡ぐ
まばゆい輝き

■ 問い合わせ
宇美町役場
糟屋郡宇美町宇美5-1-1
☎092-932-1111(代表)
ファクス092-933-7512(代表)
<http://www.town.umi.lg.jp/>



「宇美東小学校区コミュニティ運営協議会」
での発足会

住民主体のまちづくり
宇美町では、近年のさまざまな
地域課題を解決していくため、小
学校区を単位とした新たな地域コ
ミュニティ組織「小学校区」コミュ
ニティ運営協議会を設置してい
ます。町民と行政が「共にまちづく
り」を担う主役であるという意識
を持つて共働して取り組み、地域
住民の創意工夫を生かした特色あ
る地域づくりが行われています。



くすの木君・
しゃくなげちゃん
宇美町の木であるクスノキと、町花
のシャクナゲをモチーフに誕生

宇美八幡宮や大野城跡に加え、古
墳や遺跡などが数多く残る宇美町。
中国の歴史書「魏志倭人伝」にも町
名の由来と考えられる「不彌」の記
述があり、「古事記」や「日本書紀」
にもその名を残すなど、歴史的にも
由緒ある町です。
近年は福岡市のベッドタウンとし
て発展を遂げ、自然に囲まれた豊か
な暮らしの中で安心して子育てがで
きる環境づくりが進められています。
平成32年に迎える町制100周年に
向け、ますます輝きを増しています。



町外からも多くの見物客が訪れる奉納相撲



餅つき経験のない人にも楽しんでもらう参加型イベント



団長の馬渡大樹さん(写真左から3番目)ら約10人のメンバーで活動。イベント時には、元青年団の先輩も駆けつけてくれる

宇美町青年団

地域への愛を糧に
町に活気を与える
若手のパワー

18歳から25歳までの男女が所属する「宇美町青年団」。宇美町の発展に貢献することを目的に、町内のイベントなどに参加して地域を盛り上げています。5月に開催される「文化のつどい」では博多仁和加やよさこいを披露し、10月の「放生会」では町民が楽しみにしている恒例の餅つきを行います。青年団が力強く杵を振るう姿を見てもよし、参加して一緒にお餅をつくもよし、2日間でもち米100キログラム分が完売するほどの人気です。さらに伝統行事「奉納相撲」では、0歳児の土俵入りを取り仕切り歓声を浴びます。

団長の馬渡大樹さんは、「入団して6年、青年団を通してつながりが広がり、成長できた」と振り返ります。「宇美町に愛着を持つ人が増えるようなイベントをやっていきなさい」という思いを胸に日々活動を続けています。



親子フェスタや親子バスハイクなどのイベントも企画



「中学校子育てサロン」では、中学生が休み時間に遊びに来ることも



代表理事の川上利香さん(写真前列右)と「ゆうゆう」を運営するスタッフ。保育士も常駐

地域みんなで
支え合いながら育む
子育てを幅広く支援

「子育ての経験を通して、人とのつながりの大切さを実感したんです」と話すのは、代表理事の川上利香さん。「たくさんの人に囲まれて子どもを育てる環境をつくりたい」と平成14年に活動をスタートさせました。就学前の子どもとその保護者が集う子育て支援センター「ゆうゆう」の運営をはじめ、子育てに役立つ情報の発信や交流イベントも開催中。また、乳幼児とその家族が中学生と交流する「中学校子育てサロン」の運営など、幅広い世代に交流の場を提供しています。

「初めての子育てには、経験者のたくさんのお知恵が支えになります。他の親子や運営スタッフと関わる中で、子どもだけでなく大人も成長できる環境をつくりたい」と川上さん。平成24年からNPO法人として活動の幅を広げ、宇美町の子育てを応援する頼もしい存在です。

宇美子ども子育てネット・うくみん



「花が好き」と集まった町民が自主的にボランティアに取り組む



会長の山崎澄子さん(写真右)と副会長の川上瑞璃江さん



みどりの愛護活動を行っている団体として、国土交通大臣表彰を受賞した

うみ花と緑の会

季節の花が咲き誇り
町全体がみんなの
大きな庭に

平成20年に発足した、「うみ花と緑の会」は、現在66人のボランティアスタッフが一丸となり活動しています。活動時期は春と秋の年2回で、約4万本の花苗をビニールハウスで育てています。目標は「町民一人に一本」。町内の学校や保育園、公園、公民館の花壇などに花の苗を配布し、配布後は各行政区の花壇管理も行っており、町をきれいな花でいっぱいにしていきます。

「咲き誇る花を見た町民の笑顔が、ボランティアスタッフの励みになっています。花壇があることでごみの投棄も減っているんですよ」と会長の山崎澄子さん。作業中はおしゃべりにも花が咲き、高齢の人も参加しやすい和やかな雰囲気です。今年6月には「全国『みどりの愛護』のつどい」で表彰され、小さな苗から始まる美しい町づくりへの意識がさらに高まっています。



足の手術をした経験から健康の大切さを実感したという八木あきさん



高齢者向けのプログラムも充実。交流の場にもなっている



サッカーで子どもの体力向上。小学3~6年生の男女が集う

誰もが楽しめる
スポーツの力で
地域全体を元気に

平成25年に立ち上げられた総合型地域スポーツクラブ「ふみの里スポーツクラブ」は、地域とのつながりが深いのが魅力です。町民の要望を聞きながら作られた約30種のプログラムは、月額制で参加自由。公民館や武道館、小学校など、会場も町内各所にわたり、子どもから高齢者までさまざまな世代が参加しています。この企画運営を任されているのがアシスタントマネジャーの八木あきさん。高齢者の体力づくりから親子で楽しめるプログラム、エアロビクスやヨガといったフィットネスまで、多彩なジャンルの種目を企画してきました。「みんなで手をつないで一緒に作り上げていく、地域に根付いたクラブでありたいですね」。スポーツを通して健康と自信、そして生きがいも与えてくれるクラブでは、200人にも及ぶ会員が健やかな汗を流しています。

ふみの里スポーツクラブ